



シリーズ
タンチョウ
Vol. 334

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ

田中美晴

〒085-1205 鶴居村中雪裡南 ☎64-2620/FAX64-2239

鶴居 タンチョウ

検索



JALの皆さんと自然採食地整備

10月28日に日本航空（JAL）の社員ボランティアの皆さんと、タンチョウの自然採食地整備を行いました。JALといえば飛行機の尾翼の鶴丸マークを思い浮かべる方も多いでしょう。それがご縁で、今年で7年目の活動となります。今回は11名の方が参加してくださいました。

まずは、ネイチャーセンターで鶴居村村長の歓迎のご挨拶を頂き、作業のレクチャーを経て現場へと向かいました。今回は、サンクチュアリ給餌場裏手のサンクチュアリ1号という場所で整備を行います。昨年も同じ場所でJALの皆さんに整備をしてもらいましたが、昨年と今回とでは作業内容は全く異なります。昨年はタンチョウが出入りしやすいよう、水場周辺の藪を払うなどの作業が中心でしたが、今回はタンチョウの餌となる生き物を増やすための整備を行いました。

11人をA班とB班に分けて作業開始です。A班は、2本にわかれていた水路を1本にまとめる作業を行なうことで、池の中に流れる水量を増やすようにしました。B班は、小さい池の幅を広げ大きくする作業を行なうことで、たくさんの水生生物が生息できるようにしました。両班とも、重い石を運んだり、スコップでひたすら地面を掘ったりと、かなりの肉体労働となりました。それでも、タンチョウのためにと、汗と泥にまみれながら一生懸命に作業をしてくださいました。そのかいあって、水の流れを1本にでき、狭かった池もかなり大きくなりました。池の様子は、サンクチュアリのHPのライブカメラにも映っているので、タンチョウが利用してくれる日を待ち遠しく思っています。



大きくなった池の中で記念撮影

作業後は、ネイチャーセンター内でタンチョウへのメッセージをカードに記入してもらいました。「おいしい食べ物が増えるといいね。」「私たちが作った池でたくさん食べてください。」など、タンチョウへの想いの詰まったメッセージが寄せられました。

最後に、野外観察を行いました。数十羽のタンチョウを観察することができ、中には幼鳥や標識の付いたタンチョウも見られました。しばらく観察を続けていると、少しずつねぐらへと飛び立つタンチョウが出てきました。しまいには十数羽のタンチョウが一気に飛び立ち、車のすぐ真上を飛んでいきました。こんなにも大迫力な飛翔シーンを見ることは滅多にありません。きっと、タンチョウのために一生懸命に整備してくれたJALの皆さんにお礼を言いたかったのだと思います。

JALの皆さんとは今後も活動を継続し、多くの方にタンチョウの魅力や現状を伝えていきたいと思っています。そして、いつまでもタンチョウのいる美しい風景が続くよう、自然採食地整備などの保護活動を行なっていきます。